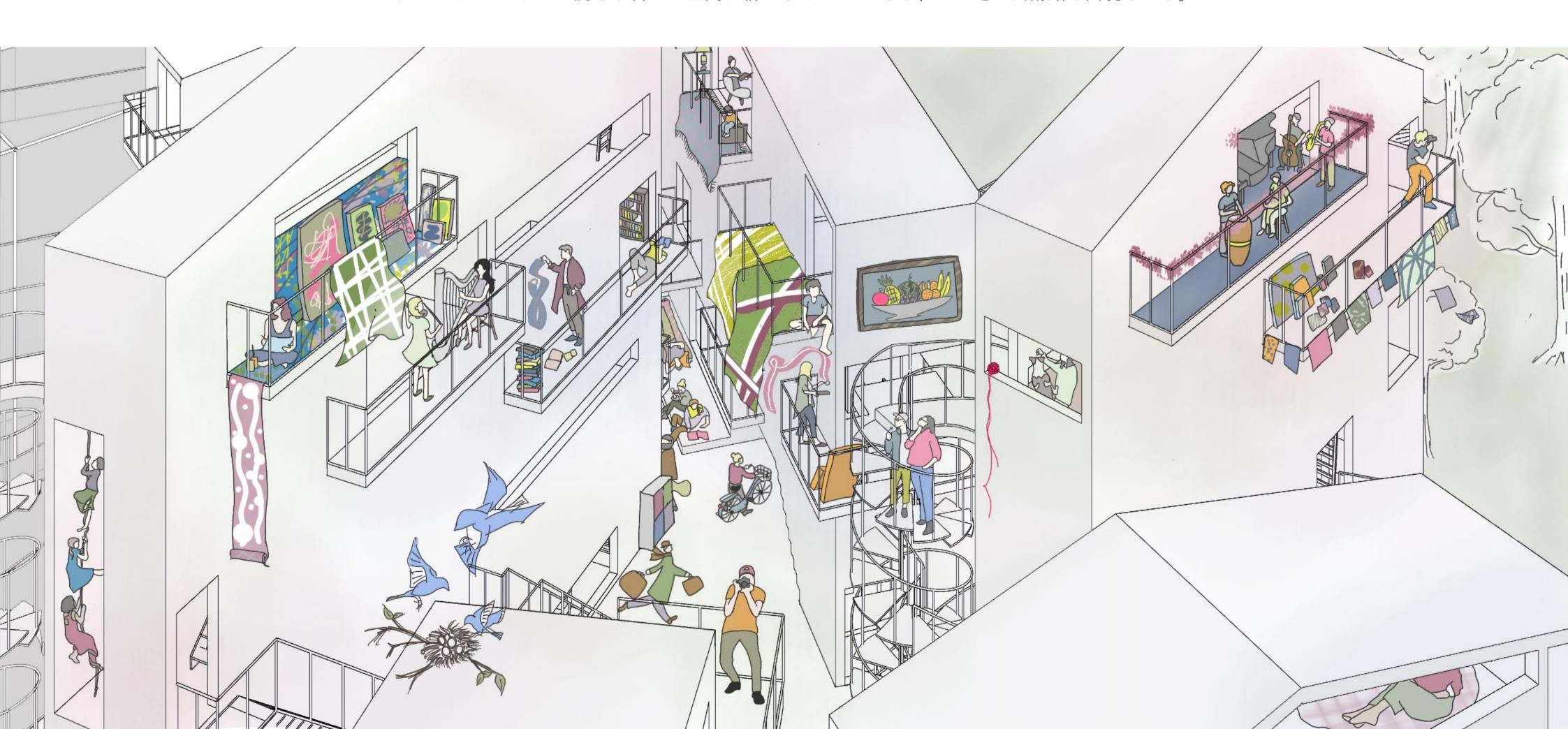
にじむイロ

人の住居の拠点となる住戸において、繰り広げられる生活形態は人の数だけある個性が出る。まさに十人十色。 その個性を イロ とする。

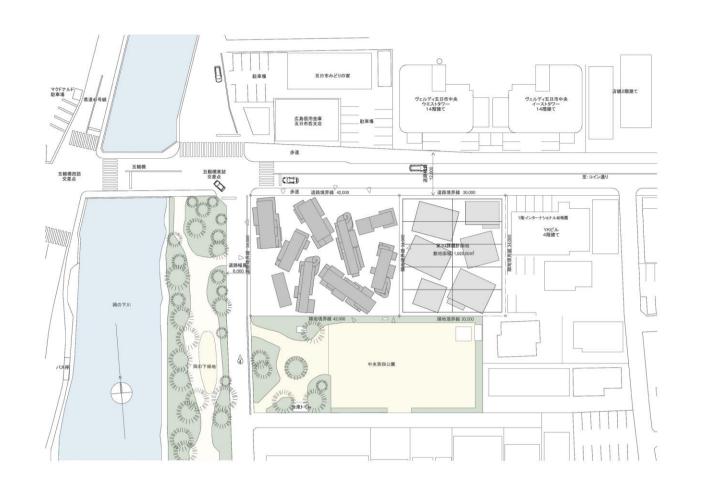
イロは住戸から外へとにじみ、広がっていく。そして、にじんだイロ同士は混ざり合っていく。

この集合住宅に住まうのは、何かを媒体として自分のイロを発信する表現者たち。 細い住戸は人々の生活を切り取りイロがにじみ出すキャンバスだ。

にじんだイロとイロが混ざり合った空間は新たなイロへとなり、この地に芸術館を出現させる。



01 敷地 面積表

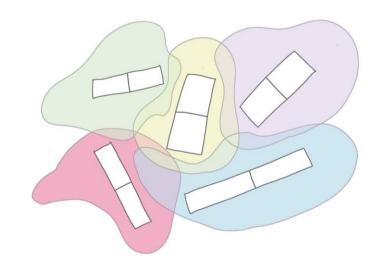


面積表	
建築面積	316 ㎡
延べ床面積	987.25 m ²

S=1:1000 配置図

鉄道駅に近い市街地の中の、比較的交通量の多い道路沿いの場所である。 通りに沿って小規模な店舗が並ぶ日常的に便利な街並みが形成。 周辺には学校が多く、西側には子ども園もあり、幅広い世代が暮らしてる。 南側と通りの向こうには公園があり、賑わいと落ち着きが共存した敷地である。

04 にじむイロ



様々な個性を持つ住人の イロ は住戸からもれだし、 混ざり合う。もれだしにじみ広がった イロ は 次第に混ざり合い、新たな イロ へとなる。

写真家と漫画家が混ざり合うと____ 料理人と音楽家が混ざり合うと____

新たなイロは新たな表現となる。

05 芸術館

にじんだイロは、白地の細い住宅に色として描かれる。 イロがにじみ出ることにより、 キャンバスの役割を担うこの集合住宅は街の芸術館となる。

地域住民にとっては芸術に触れる場となり、 住民にとっては自分の表現を見てもらい外に発信する場となる。



02 住まう表現者たち

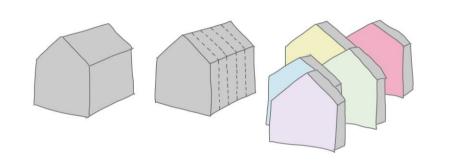
この集合住宅に住まうの表現者たち。

写真家、料理家、画家、漫画家、音楽家、芸人、 建築家、フラワーデザイナー、作家 etc...

何かを媒体として自分を表現する者。 彼らの周りには、日々自分の作品があふれている。 住民の個性は**イロ**となりあらわれる。



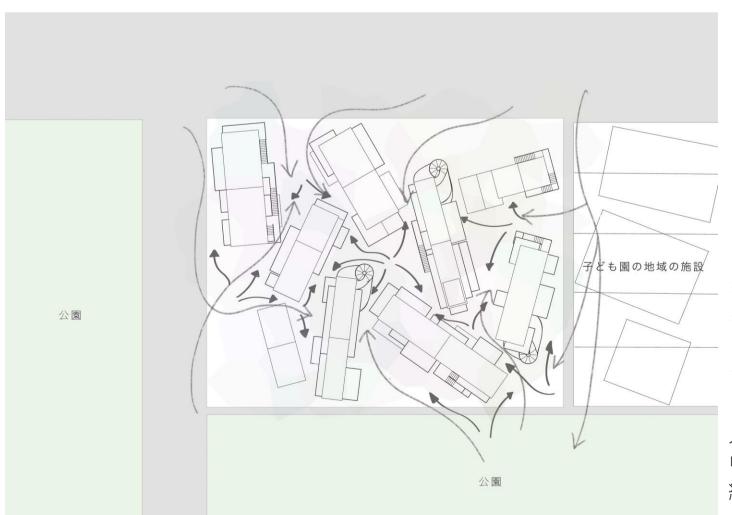
03 切り取る住戸



住宅において、

一番住民の活動が垣間見えるのは断面である。 この集合住宅は、1棟の住宅を輪切りし、 断面を表に出した造形になっている。 それにより、住戸の中に閉ざされていた活動が 外へと**にじみ**出していく。

06 館內経路

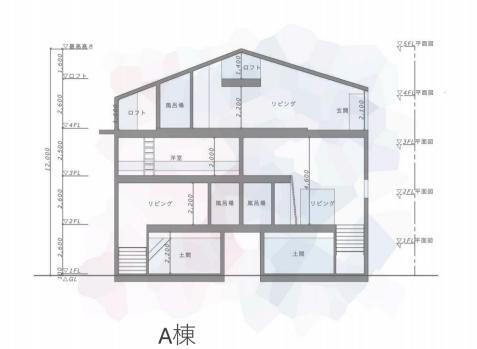


特定の出入り口を設けず、 特定の経路も設けていない。 自由に回ることのできる 流動性を持たせた配置。

人を外から中に誘い、 中からさらに中へと誘う 経路を構成。

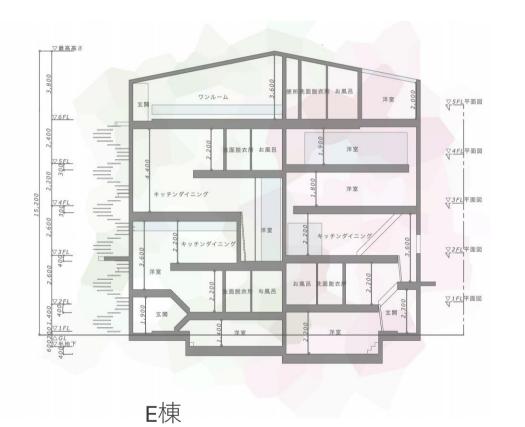
自由の中でも、観覧者(住民)には次の経路に対しての選択を与え、流動性がある中にも部分的な止まりの空間を設ける。

07 各棟の詳細



・住戸A 1戸

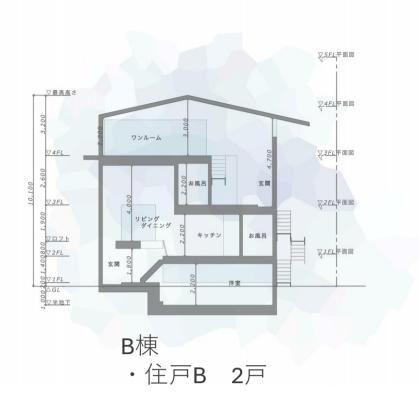
・住戸B 2戸



住戸A 1戸住戸C 3戸



G棟 ・住戸C 4戸





F棟

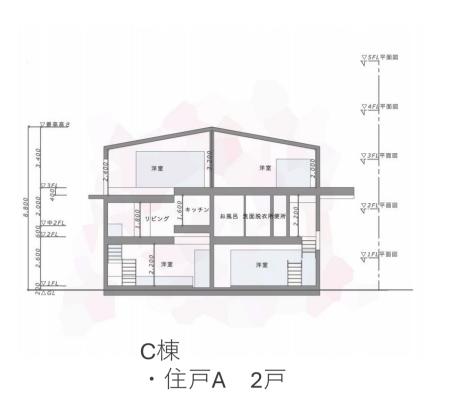
- ・住戸A 1戸
- ・住戸B 1戸
- ・住戸**C** 1戸

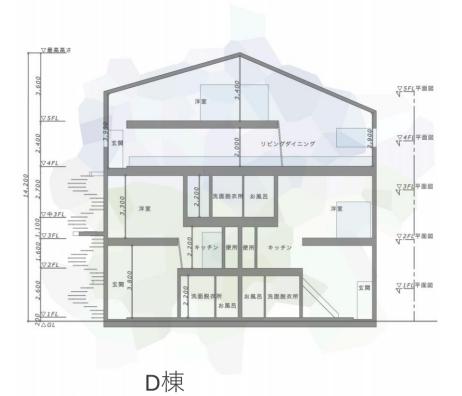
事務棟

- ・管理人室
- ・ごみ保管庫
- ・設備室

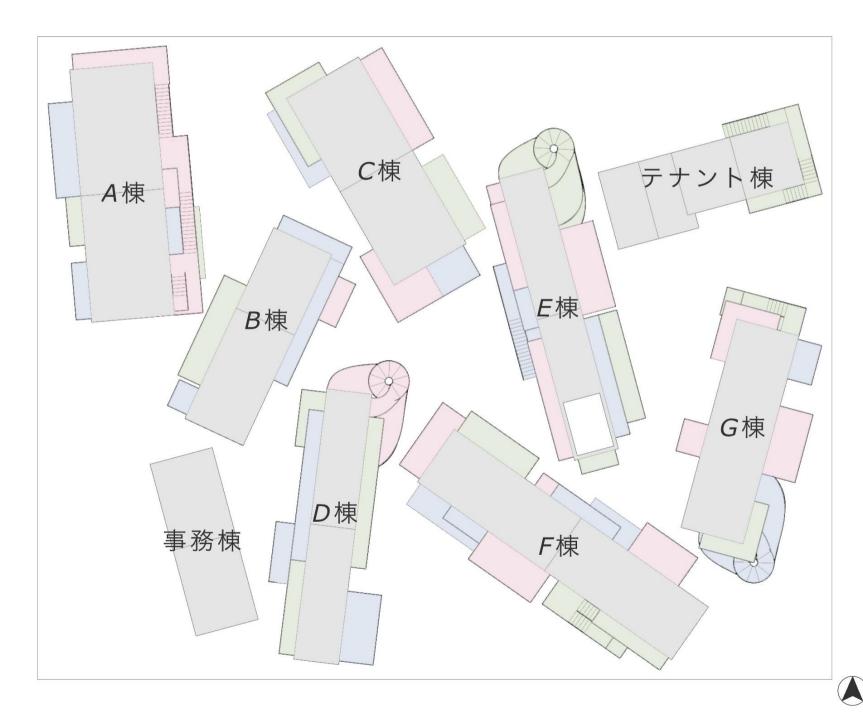
テナント棟

- ・テナント3つ
- ・共有スペース(共有キッチン)



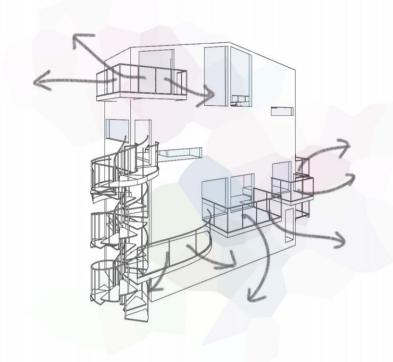


・住戸B 1戸 ・住戸C 2戸



S=1:200 屋根伏せ図 S=1:200 各棟断面図

08 3種のイロ



「ひろがるイロ」

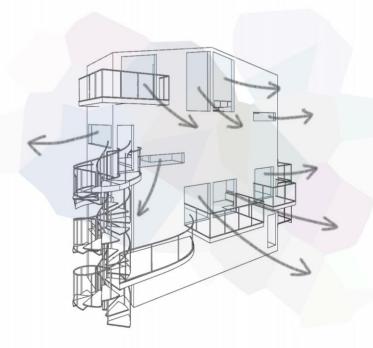
細い住戸は外が近いのが特徴。

壁の左右に開口を取り、空間を広げる操作をする。圧迫感が減ることで狭さを感じさせない。住民のプライバシーを保ちつつ、住戸内の活動が外へとにじむ。



「うごくイロ」

上下を繋ぐ外部階段。上階に住む住民にとっては玄関へと続く道である。階段の踊り場は住民の表現スペースとなり、交流の場ともなる。



「もれるイロ」

各フロアを外へと拡張。

フロアラインがつながっていることで空間の広がりを感じ、住民の足を自然に外へと向ける。「ひろがる イロ」と合わせつことによって、開放感と外とのつながりを持たせる。



S=1:200 5FL平面図



S=1:200 4FL平面図

09 イロの活用

各住宅ににじんでいる3種のイロでは、日常的にプチテナントを設けることも可能。

住民の表現した作品を展示したり、販売したり、はたまた住民自らの安くつろぎスペースとしての活用や、自然を感じる空間、ちょっと広めの通り道、雨宿りなど、、、

住民の個性から生まれるイロはこの地に賑わいや安らぎをもたらす。

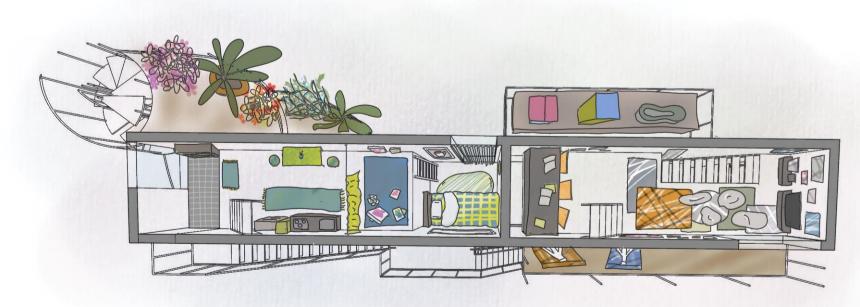


10 極狭住宅

横幅2m、3m、4mの極狭住宅。 狭いことで外が近くなり、必然的に活動が外へと向かう。 階段はささら桁階段を使用し、奥の空間とを繋ぎ圧迫感を減らす。

3種のイロは住宅の延長として、表現の場として活用。

自室の近くに他の住民の表現が散らばっているため、にじんだ イロ が 混ざり合う。=インスピレーションを受ける、与える。



E棟平面図イメージ



S=1:200 3FL平面図



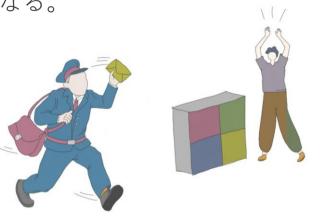
11 住民の日常経路

住民に対しても特定の出入り口を求めていない。

駐車場、駐輪場の配置を敷地内でばらけさせ、一か所に必ず集まらない構成。

また、郵便ポストを各棟ごとに設けることによって、さらに流動性を高める。

より自由な空間へとなる。



12 テナント

テナントはA、B、Cの3つ設置。

多くの表現者が集まている集合住宅のため、

週替わりで主催者をローテーションさせた展覧会、販売会を計画。 共有キッチンでは料理人の料理のふるまいも。



13 人と芸術

この集合住宅は、隣に子ども園があり周囲には多く学校があり多くの住民が住む。この立地にある芸術館は人々に様々な教育をもたらす。

特に子どもと芸術。

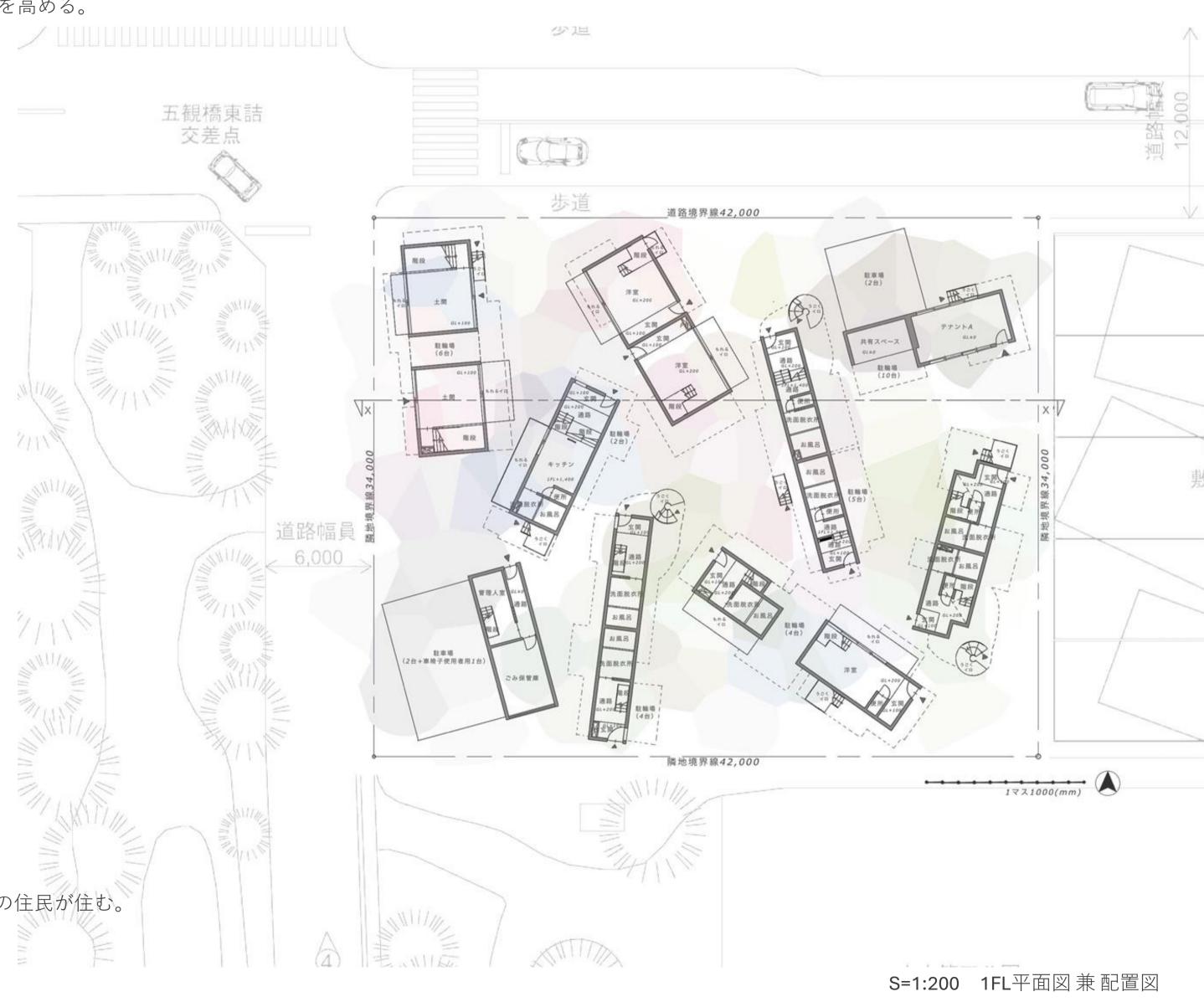
子どもに芸術を掛け合わせることで、

子どもたちは感性を豊かにし、コミュニケーション能力や創造性を高める。

子どものうちから様々な芸術に触れることは、あらゆる人々が芸術を享受できる

環境作りとなるであろう。そして、その芸術を享受する場を身近に設けることは、

日々の生活をちょっと豊かにし、表現者にとっても活動の場が増えることにもつながる。





S=1:100 x-x'断面図

